

魅惑の娼館物語～大和撫子トウコ編～

トウコ役：篠守ゆきこ

館主イロハ役：結姫うさぎ

☆前置き

いらっしやいませ。

今宵は娼館"織姫屋"へお越しいただき、ありがとうございます。わたくし、オーナーのイロハと申します。当館はニッチな性癖をお持ちの方が好んで来店していらっしやる、少し特殊な娼館になっております。

ふふっ、そう引け腰にならなくとも、大丈夫ですよ？

先程特殊……とは言いましたが、娼婦達は良い子達ばかりで、品質の高さはお約束いたします。

では早速、っと、そうですね……。

実はこちらには娼婦の一覧は置いておらず、一枚一枚の写真になってしまうので……。

少々お待ち下さい……。

ふーむ……なるほど……そうですねえ……お客様でしたら……、こちらの娼婦、トウコなどは如何でしょう？

どうでしょうか……？ 大変べっぴんさんでしょう？

ふふっ……トウコの黒髪は、とても綺麗でこの娼館でも有名なんですよ。気に入っていただけましたか？

そうですね、それはそれは……何よりです。くすくす……。

いえ……わたくし、お客様のお顔を拝見しただけで、

おおよそではありますが、その方の性癖、好みのタイプが把握できてしまうので……。

ふふっ……さて、では早速お部屋をご用意させていただきますので……。

今宵は、トウコとのお戯れをごゆっくりとお楽しみください……。

☆Chapter1 オイルで性的マッサージ編

こんばんは、お客様。本日はトウコをご指名いただきまして、誠にありがとうございます。

今宵、一夜の夢をあなた様と共に紡いで行きたいと思っております。どうかよろしく願いたします。

……お客様はとてもお若く見えますね。

あの……お客様がよろしければ……是非、お兄様と呼ばせていただきたいのですが……。

よろしいでしょうか……？ ありがとうございます。それではお兄様、改めてよろしく願いたしますね。

えっ、この髪ですか？ ああ、写真でご覧になられたのですね。

ええ、実は良く言われるのですが、これと言って特別なことはしていませんよ？

強いて言うなら、規則的な睡眠が大切なのかなって私は思っています。

そういえばお兄様、シャワーはまだ浴びていらっしやらないのですよね？

では、ご一緒させていただきますので、どうぞこちらへ。

ふふっ、お兄様、どこを見ていらっしやるのですか？

お兄様のえっち。……やっぱり髪も綺麗、ですか？

あ、ありがとうございます……。お世辞でも髪のことを褒められると、やっぱりうれしいですね。

お世辞じゃない？ わ、わかりましたからっ！ 恥ずかしいのでっ、そこまでしておいてくださると……。

か、身体を流したら、オイルを塗っていきますからっ！

今回はこの、ローマンカモミールの花のオイルを使用していきます。

ふふっ、どうですか？ 甘い香りがするでしょう？

私はこのリンゴの香りのする花のオイルが大好きなんです。それにこのオイルは髪にも良いんですよ。

はい、それでは……身体に塗り込んで行きますね。んっ……ふふっ……。
このオイルには、緊張を解す効能もありますので、身体のを抜いて、私に全てを委ねてください……。
ふっ……んっ……。んふふっ……気持ち良さそうですね。
んう……ふうっ……ねえ、お兄様。もっと気持ちいいこと……して差し上げましょうか？
お兄様、私とあった時に、髪とこの……胸、ずっと見ていましたよね？
女の子は殿方の目線には敏感なんですよ？ちゃんと私の目を見て、お話ししないとダメじゃないですか……。

そんなに照れなくても、いいんですよ？
お兄様がつい見てしまうこのおっぱいで……今度はオイル、塗り塗りしましょうか。

んっしょ……どうっ……ですかあっ……私のおっぱいで……お兄様の身体を包んじやってますよっ……？
私も乳首が擦れてしまって……あっ……少し感じてしまいますっ……。

やんっ……ダメですよっ……そんなにじっと、顔、見ないでください……。
んん……こういう時は、私の顔を見るんですねっ……。お兄様は……少し意地悪なのでしょうか……。
んしょっ……こうしているとっ……二人が一つの身体になったみたいで、
とってもいやらしい気持ちになってしまいますっ……。
んうっ……お兄様と一緒に、蕩けてしまいそう……ですっ……。

ひやっ……！
お兄様のおチンポ……元気になってしまいましたか……？
一度、出してしまいましょうか……。

わかりました。
では……僭越ながら私の手コキで、お兄様のこの立派なおちんちんを、シコシコさせていただきますね。

んっ……やんっ……。触れた瞬間にとってもビクビク反応されました……。
はあっ……お兄様のおちんちん……とっても男らしいですよ……？
ふふっ……オイルでぐちょぐちょになったおちんちん、お手でシコシコされるの気持ちいいですか……？
テカテカといやしく光って、私も興奮してしまいます……。

私のメスとしての本能が……お兄様のオスの部分にくすぐられてしまって……はあっ……すごい……。
この出張った亀頭と、カリの形もはっきりとわかって……。まったくもう……本当にいやらしいオチンポですね……。
先からカウパーが出てしまっていますよ……。くすくす……。
お兄様のカウパーとオイルが混じって、とってもえっちで甘いニオイ……私、頭がクラクラしてしまいます……。
んっ……手だけでは物足りないでしょうか……？
ふふっ……、ではお兄様は、このおちんちんをどうされたいですか……？

えと、胸ですか？ ああ、私のおっぱいで……所謂パイズリ、をしてほしいのですね……。くすっ……わかりました。
このオイルでヌルヌルのおっぱいで、お兄様のおちんちんを包み込んでしまいますねっ……。
んんっ……！ はあうっ……すごいっ……ビクビクンしてますっ……。このまま……上下に動かしますよっ……？

はんっ……んっ……どう、ですかっ……？
私の乳マンコ……気持ちいいでしょうかっ……？ ふふっ……。
んしょっ……はあっ……はあっ……お兄様、腰浮いちやっていますよ……？ くすくすっ……。
ああっ、お兄様、気持ち良さそうなお顔っ……。
もっと気持ちよくなっ……！ 私の胸っ……おちんちんを射精するためだけに思う存分使ってくださいっ……！
はあっ……はあっ……、お兄様、よく見てください……。私の胸の谷間におまんこができちやっていますっ……。
あんっ……乳マンコから亀さんが出たり入ったりして……んっ……あんっ……。
オイルで滑りがよくなっていますからっ、いっぱい胸の中でおチンポが動き回っていますよっ……。

んっ……はあっ……お兄様のおちんちん、反応が激しくなってきました……。
 達してしまうのですか……？ヌルヌルの女の子の乳マンコセックスでいってしまうんですか……？
 はあっ、はあっ……！いいんですよ……どうぞ、イってくださいっ……！
 お兄様のおチンポミルクで私の顔と胸をっ……お兄様の精液で沢山汚してくださいっ！
 はっ、ほら！イッてえっ！いっばい出してっ！私に精液ビュービュー顔面シャワーしてえっ！

きゃっ……！はあっ……はあっ……ああ……すごいオオイ……。
 はあっ……顔中にお兄様の精液が掛かってっ……んふっ、濃厚精子にマーキングされてしまいました……。
 相当溜まってらしたんですね……。すごい量です……。あう……髪にも少し、掛かってしまいました……。
 くすくす……。大丈夫ですよ、お兄様の精液なら……。
 わざわざ気に掛けていただかなくても結構ですので……。ふふっ、お兄様はお優しいですね……。

それではお背中をお流ししますので、そのあと……お布団に参りましょう？
 まだまだ沢山、ご奉仕させていただきますからねっ……。くすくす……。

☆Chapter2 疑似処女喪失プレイ編

んふっ、それでは……これからこの特性オナホールで、お兄様のことを気持ちよくしてさしあげます。
 実はこのオナホール……、私のここ……おまんこの形を模って作った特注オナホールなのです！
 個人的にイロハさんをお願いして作ってもらっていたのですが……。
 なんとこのオナホールさん、今回が初使用なんですよ。
 つまり……、わかりますよね？お兄様が私の処女を奪ってしまう疑似体験ができてしまうんです……。

ふふっ……もうっ、お兄様のココ……説明してる間にまた大きくなってきましたよ……。？
 全く……どうしようもないお方です……。くすくす……。
 もうすこしだけ我慢してくださいね……。
 ちゃんとおちんちんが気持ちよくなれるように、ローションをたっぷりぬりぬりして、濡らしておきますので……。

あんっ……見てくださいお兄様……。
 もうこんなに濡れちゃいました……。私のおまんこオナホール……。くすくす……。

くばあって開いてあげますから、奥までじっくり見てもいいんですよ……。？
 やだ、お兄様に視姦されちゃってます……。な、なんだか少し恥ずかしいですね……。
 これからここに入れて、気持ちよ～くなれるんですよ……。？
 でも、きっとお兄様のことですから、ローションだけじゃ物足りませんよね……。ふふっ……それじゃあ……。

あー……。
 ん……ふあ……私の唾液もこうやって……んふっ……くちゅくちゅかき混ぜちゃいますよ……。
 ……この音、聞こえていますか？ふふっ……とてもえっちな音がしてます……。
 んふっ……泡立ってきちゃいました、ほら、よーく観察してください……。
 どうですか……。？とーってもいやらしい穴でしょう……。？私にもこれと同じものが、ココについているんですよ……。
 くすっ……。興奮しました？ほらほら、早く入れたいですよえ……。？

あんっ！お兄様の遅いおちんちん……ゴムのおまんこの中に入りたいよおーってビクビクしていますっ……。
 もうっ……わかりましたよ。
 そろそろ、私の唾液とローションでたっぷりのオナホールにお兄様のおちんちん、入れてしまいませんか……。？

その前に……。
 この目隠し、つけさせてもらいますね……。何故かって？
 視覚を遮断した方が、快感が増すんですよ。騙されたと思ってやってみてください。
 んふっ……何も見えなくなっちゃいましたね……。

それでは入れちゃいますよ……。ほらほら、入っちゃいますよ一つ……。

……一つ！ あはっ！ ごめんなさい、一気にくちゅってぜーんぶ、入っちゃいました……。いやだ、お兄様ったら……背筋もこんなに反らしちゃって……そんなに入れたかったのですか……？ くすくす……。

……入れただけで感じている暇はありまんよ？ これからたつぷりと動かして差し上げますっ……。んっしょっ……。どうっ……ですか……？ 私のおまんこオナホ……気持ちいいですかっ……？ 中のヒダヒダも、私と同じように、ついているんですよっ……。だから……私のおまんこもっ……こんな風につ……。ふふっ……おちんちんにヒダヒダが絡みついてくるんですよっ……。

あはっ……すごいっ……お兄様の腰、動いてしまっています……。これは偽物のおまんこなのに……興奮してしまっているのですか……？ 私とセックスしているところを想像しているのでしょうか……？ くすっ……。では、お兄様の気分を高めるために、少々演技してあげないといけませんね。くすくす……。

あんっ、お兄様っ……！ どうですかっ、トウコのおまんこっ……！ 気持ちいいですかっ……？ 私もとっても気持ちいいからっ、お兄様のおちんちんをキュンキュン締め付けちゃうのっ！ ごめんなさいっ！ んんっ……！ このお……裏スジのところ、擦られるのが気持ちいいのですか……？ そんなに腰ガクガクさせちゃってっ……！ つ……うっ……あんっ……！ ふうっ……ひうっ……！ やあっ……！ お兄様のおちんちん……膨らんできましたねっ……！ ああっ……！

やだやだっ、どうしましょう……！ このままでは、私、種付けされてしまいます……！ あっ……！ ああっ……！ 精子出しちゃうんですかっ……？ お兄様の腰の動きが更に激しくなっ……！ あんっ……！ そんなっ……！ 一番奥でゴリゴリしちゃダメっ……！ お兄様っ……！ あっ！ ああ……！ イッてしまわれるのですねっ……？ ふふっ……私のキツキツおまんこに締め付けられて情けなくイク姿をよーく私に見せてくださいっ……！ いいんですよっ……！ このままお兄様のえっちなくさーい濃厚ザーメン中に出してしまってもっ……！ ほらっ……！ ほらほらあっ！

んっ……！ ……あはっ、出てる出てる……。中でびゅくびゅく一つって言うてるのがわかります……。本当に中出し、してしまわれたのですねお兄様……。

私の偽物おまんこに……。くすくすっ……。精液た一つぶり出したのが、オナホ越しに手のひらに伝わってきます……。……私の演技で興奮していただけましたか？ くすくすっ……。もうっ、お兄様ってば……そんなに残念な顔しないでください。よしよし……。

では、一息つけたところで……。これからもう一度、射精してもらいましょうか。

ん？ 何を言っているのでしょうか……？ ダメですよ、休ませてあげません。このまままたシコシコして、お兄様が壊れてしまうお姿が見たいのです。くすくす……。

はい、それでは二回目、動かしちゃいますよお……。わあ……シコシコするたびに中に出していただいた真っ白な精液がオナホから溢れてきています……。いやらしい……。

あらあら、またおちんちんが硬さを取り戻してきましたね……。お兄様ったらいくらでもできてしまうぐらい溜め込んでいらっしやっただけですね……。くすくす……。それなら私も遠慮は要りませんね。このまま続けさせていただきます……。

はい、シーコシーコ……くすっ、敏感になっちゃった亀さんがたまらないのですか……？
そんなに身体をぶるぶる震わせて……お兄様……私の母性本能をくすぐらないでくださいよ……もう……。
頑張ってるのをこらえているお姿、とってもかわいらしいですよ……。
あんまりかわいいものですから、動きを早めてイジめてしまいたくなります。

イヤイヤしてもだ一め、ふふっ……そんな姿もカワイイ。お兄様のせいで、私も我慢できなくなってしまいました……。
ほらほら、スピード上げて行きますよ。んっしょ……シコシコーっ……。

ふふっ……。とっても気持ち良さそう……。もう何も考えられないですか？
目隠しずーっとされて、何も見えないから不安ですか……？

でも、気持ちいいんでしょ……？ 私に目隠しされて……おちんちんを支配されてしまっている感覚……。
ふふっ、このまま癖になってしまうかもしれませんね……。くすくすっ……。

ほらっ……イクんですか？ イクときは、ちゃんと私の名前を言いながらイッてくださいね。
作り物とはいえ、私を模ったゴムの玩具にイカされてしまうんですから……。
達してしまうのなら誰のおまんこにイカされてしまったのか、はっきりと名前を呼びながらイッてもらわないと……。
わざわざ作った甲斐が無いでしょう？

ほらっ！ トウコのおまんこでイクって言いなさい！ もっと！ 私の名前を呼んでっ！ お兄様っ！
ああっ！ いいですよ！ お兄様に名前呼ばれるの、好きっ！ あんっ！ お兄様っ！
くすっ……、イキたい？ イキたいの？ またトウコの中でイっちゃうんだ？ しょうがないお兄様ですねっ……！
ほらっ、イきなさいっ！ イきたて敏感おチンポごしごしごかれて精液全部出しちゃえっ！
私の偽物おまんこに無駄打ち精子発射しちゃえっ！ ほら、イケッ！ イケイケイケッ！

あんっ……！ ……うわー……出てる出てる……すごい勢いですねー……くすくすっ……。
あはっ、突き出した腰がガクガクして止まらないですねえ……。

連続なのにこーんなに出しちゃって……ほーら、尿道に残ってるザーメンも全部絞ってあげますからねー……。
シーコシーコ……。
くすくすっ……。
またしても、作り物おまんこに金玉ミルク沢山どびゅどびゅっって搾り取られちゃいましたね、お兄様……。

ふうっ……満足されましたか……？
目隠しを外してあげますから、情けなくイッてしまったお顔を見せてください……。
ふふっ、目に涙を溜めちゃって、泣くほど気持ちよかったのでしょうか……？ 可愛いお兄様です……。
おや、一度に二回も出したのに……、お兄様のおちんちん、立派なままですね……。
まさか、まだやり足りないのでしょうか……？ ふふっ……。私の身体でその欲望を……ぶちまけたいのですか？
くすっ、そんな顔してもダメですよ。けれど私も、実はお兄様のことが……

んんっ！ い、いえ、なんでもありません……。
お兄様とは……もう少し時間を掛けて、じっくりと親密な関係を築きたいのです。
ですからまだ暫く、私のワガママに付き合ってくださいたいのですが……。よろしいですか……？
ふふっ……、ありがとうございます。
私、これでお兄様のことがまたひとつ、好きになってしまいました。くすくすっ……。

☆Chapter3 黒髪支配髪コキ編

ねえ、お兄様……。一つ提案があるのですけれど……。
この髪を、白く染めてみたくは無いですか？
んふっ……。だって、お兄様ったら……。ずっと私の髪をチラチラ見ているんですもの。
お兄様の為なら……。私、この髪でおちんちんを、気持ちよくしてあげることだってできちゃうんですよ……？

んーと、例えば……
ほーら……。お兄様のおちんちんに、私の髪の毛でくるくる一つと包んでえ……。
くすくす……。あら、見てください。髪がかり首に巻きついちゃいましたよ……。？
どんな気分ですか……。？私の髪に縛られちゃってる感覚は……。

くすっ……。今、とってもかわいらしい声が出ましたね……。？
くすぐったいのですか……。？それともお……。
私の髪をお兄様の汚らわしいおちんちんで汚してしまっているという背徳感……。
それに興奮してしまっているのでしょうか……。？
んふふっ……。お兄様ったら……。イケナイお方……。
いえ、いいんですよ……。どうぞ、私の髪の本一本本まで……。しっかりと感じてくださいね……。

んっしょ……。お兄様の亀頭に、髪を押し当てて……。私の手で、亀さんをゴシゴシしてあげますっ……。
んっ……。ふふっ……。ザラザラして、痛いような気持ちいいような、不思議な感覚でしょう……。？
あはっ、もしかしたら尿道に私の髪がにゆるんって入ってしまうかも……。くすくす……。

怖いですか……。？お兄様の尿道が私の髪に犯されちゃうところ……。想像してください……。
嫌だ嫌だ……。お兄様は言うけれど……。私の髪はおちんちんをイジメ倒してしまうんです……。
にゆるにゆる……。お兄様の尿道おちんちんぼ処女穴を責めちゃうんですよ……。？くすくす……。
恥ずかしいですか……。？
顔、隠しちゃダメですよ？犯されてるのを想像して、アへってるそのだらしのない顔……。しっかりと私に見せてください。

……。何よだれ垂らしちゃってるんですか？
気持ち悪いですね、お兄様が私の髪だけで満足しちゃうようなマニアックな変態さんだったなんて……。
こんなに魅力的な身体が目の前にあるのに……。ねえ？
それでも私の髪に夢中なんですね。はあっ……。仕方ない人。

ん……。なんですか……。もう我慢できないって……。？
ふうん……。そうですか。私の髪がそんなに好きなら、お兄様の大好きな私の黒髪ごしにシコシコしてあげますよ。
んっ、と……。おちんちんにしっかりと髪を巻きつけて……。っ……。
ふふっ……。お兄様のおちんちん、私の髪で見えなくなっちゃいました……。
この上から……。私のお手でこのおちんちん、シコられたいんですよ……。？くすくす……。
そんなにお望みなら……。っほらほらっ！こうして激しくされるのがイイんですよ、お兄様っ！
ちょっと……。私の髪にたくさんヌルヌルがついちゃってますよお……。？
もう……。毎日ちゃんとケアしてるのに、どうしてくれるんですか？変態お兄様ったら……。

くすくすっ……。アンアン喘いじゃって……。
こんな年頃の女の子の髪の毛でおちんちん擦られて感じてしまうお兄様は、本当に変態さんですね……。
うん？随分いつもと態度が違う？そうでしょうか……。
でも、お兄様は私の髪の毛以下の存在だから……。これぐらいの対応でいいんじゃないでしょうか……。くすっ……。
……。あら？酷いことを言ってしまったと思ったのに……。
お兄様……。どうしてさらにおチンポをバッキバキにおっ勃てているのでしょうか……。？
まさかまた……。私の髪にイジメられたくて、こんなになっちゃったんですか……。？

ふふっ……やはりお兄様はこういうプレイもお好きでしたね……。
私も本当はこんなこと言いたくないのです……。
けれどお兄様が喜んでしまうのですから……。しょうがないですよ……。くすくすっ……。
そう、お兄様はマゾだと言っているんです。その節操なしのおチンポをしっかり教育してあげますから、
その間お兄様は私の髪の毛でも舐めていけばいいんじゃないでしょうか、ほら……。

んふっ……そんなに必死に舐めて……おいしいですか？ 私の髪の毛……。くすっ、バツカみたい……。
んっ……どうですか……？ 裏スジにザラザラした髪の毛の感触がして、たまらないでしょう？ んっしょっ……。
ふふっ……息が荒くなってきましたよ……興奮、しているんですね？
素直になってください、お兄様は私の髪の毛に弄ばれて、おチンポ興奮しちゃってる変態さんなんだって……。
そう……まるで触手さんに犯されているみたいな格好ですよ……くすくす……。

とっても気持ち良さそうですね、お兄様……。
私の髪に犯されてしまっている感覚……癖になっちゃいそうですか……？
いいんですよ……。身を任せて、いっぱい気持ちよくなってください……。んっしょっ……んうっ……。
とってもかわいらしいです、お兄様っ……。
でもこのまま、お兄様が私の黒髪をペロペロしないとイケない身体になったらどうしましょう……。
それは少しかわいそう……。
なーんてっ、お兄様が私だけのものになるなら、私はそれでいいんですけれどっ……くすくすっ……。

あら？ そろそろイっちゃいますか？ キンタマキュンキュン上がってきましたねえ……。
あー……でもこのままだと私の髪の毛にお兄様の子種がが掛かっちゃう……。
なんですか……？ 私の髪を真っ白に汚すところ想像しちゃいました？
んもう……髪の毛に精液ついたら……落とすの結構大変なんですよ……？

でも、愛しいお兄様にならっ……この髪にせーえきぶっかけるのを許可してあげますっ……ふふっ……。
お兄様っ……はあっ……はあっ……いいんですよっ……！ 私の髪をつ……汚してしまってもっ……！
ずーっと見てた私の髪からっ……、お兄様の精液ニオイがするぐらい沢山ぶっかけてくださいっ……。
洗っても取れないくらいたくさん出してくださいねっ……。ほらほらっ……！
早く濃厚精液ドピュドピュ出してっ……！
私の髪を精液まみれにしてえっ！ お兄様の子種汁でマーキングしてっ……！ あっ、イっちゃうっ！
トウコに髪コキされておチンポイっちゃうっ！ いいよっ、掛けて！ いっぱい掛けてくださいっ！
ほらほらほらあっっ！

ひやうっ……！ あ、ああっ……！ やあっ……んっ……！
お兄様の亀頭の先からたくさん精液がいっぱい出てっ……私の髪に掛けられてるっ……。
はあん……お兄様ったら……こんなに出してっ……。
はあっ……はあっ……。ふうっ……。

んふふっ、満足していただけましたか……？
そう……よかったです……。
お兄様がお望みなら、これからもこの髪を……性のはけ口に使ってもいいんですよっ……。くすくすっ……。

えっ、これからも私をずっと指名する……？ 本当に……？
い、いいんですかそんなこと言って……。私って結構、嫉妬深いんですよ……。？
そ、そうですか……。いえ、素直にうれしいです……。
これからも私、お兄様に気に入っていただけるよう、ご奉仕させていただきますね？ ふふっ……。

☆Chapter4 電マでカウントダウン射精編

さて、本日もお兄様にリピートしていただけたことですし、今回は少し激しめのプレイに挑戦しちゃいましょうか……。むっ、なんですかその顔は……。激しくしてもかまわないけど、頑張るからご褒美が欲しい……。うーん、そうですねえ……。ふふっ、それなら……。言う事聞いてくれたら、セックス、して差し上げますよ？

あはっ、お兄様の顔色が変わりました。そんなに私とハメハメしたいのですか？なら今日も、私の言うこと聞いていただきますね……。今日はお兄様の為に、わざわざ自宅から持ってきたものがあるんですよ？

じゃじゃーん！これ、もちろん見たことありますよね？ そう、電気マッサージ器です！ 通称電マです！ なんだかおばさん臭い……。し、失礼ですね……。！ 女性に対してそういうことは言うてはいけないのですよ！ もうっ……。女の子だって肩くらい凝るのにつ……。というかそんな軽口を叩けるのも今のうちなんですけれど……。ふふっ……。

ということで、今日はこの電気マッサージ器で、お兄様を文字通り、マッサージして差し上げます。えっ？ そんなことでいいのか、って？ ええ、何せ今日はお兄様の日頃のお疲れを癒やして差し上げるのが目的ですから……。

さて、まずは肩からっ……。それでは当てていきますよ～？ わわっ、結構固くなってますねえ……。……。どうです？ 気持ちいいですか……？

というかやっぱり、近くで見ると殿方だって感じのする身体つきです……。今までしっかりとお兄様の身体をまじまじと見ることがなかった……。と言いますか下半身ばかり見てたので……。って、な、なにを言わせるんですか！ つ、次は背中にいきますっ！

んっ……。ご自分で電気マッサージ器を背中に当てることってほとんど無いですよ……。こうして電気マッサージ器を……。二つ使ってっ……。背骨の両脇に沿って押し当てると……。んっ……。気持ちいいんですよ……？

ふふっ、とっっても気持ちよさそう……。やっぱり私は、お兄様の気持ちよさそうな顔を見るのが好きです……。背中も立派です、私と違ってゴツゴツしてて男らしいですよ……。自信を持ってください……。ふふっ……。

次は腰に行きますね……。腰は、ゆっくりと外側から内側へ動かして……。んっしょっ……。お兄様はずっと腰を動かしてるんですから、随分お疲れなのは……。？ なんて、冗談ですよ。こうして、お尻にも当てて……。んっ……。人にやってもらおうと、電気マッサージ器とは言え一味違うでしょう……。？

ふふっ、それでは次は股間へ行きま……。——って、ちょっと、何ですかこの手は……。っ……。いいですから！ 今日はお兄様は動かなくても大丈夫ですから！ そのままリラックスしててください……。。

一旦電マは置いておいて、手で金玉さんを揉みほぐしていきますね……。かるーくもーみもーみ……。どうですか？ 変な気分……。？ おかしいですねえ……。マッサージしているのですから、気持ちよくなっていたか……。んっしょ……。ふふっ、そんなに怖がらなくても平気ですよ……。？ 潰したりなんかしませんから、くすくすっ……。んっ……。うーん、これは……。随分と凝ってますねえ……。しっかりと電マで股間の凝りをほぐしてあげないといけません……。それでは電マを使っていきますね……。

……なんですか？

まだ何か……？ 私のお願ひ……聞いてくれるんですよね？ ……セックス、させてあげませんか？
くすっ……、よろしい。ではそのままお願いしますね、お兄様……。

まずは強さを、弱にして……この玉袋とアナルの間……ここを電マで当てていきます……。

ふふっ……ちよっとお兄様、どうかされましたか？ 急にビクッとされて……。

暴れちゃダメですよ？ 凝りがほぐれるまで続けますからね、くすくすっ……。

いい感じになってますねえ……声が出るほど気持ちいいのですか？

こうしてアナルから、玉の裏までゆーつくりと沿わせていきます……。

んふっ……アナルひくひくしちやっ、可愛らしいですよ……。

ほら、ここを往復しながら……ふふっ、気持ちいいですねえ……。

お兄様が今思っていることを、当ててあげましょうか……？ 竿にも電マを当てて欲しい……でしょう？

くすっ……お気づきでしたか……？

私がこの場所を攻めている間に、お兄様がすっかり勃起してしまっていることに。

大丈夫ですよ、これから竿の方にも電マを当てていきます……。

こうしてアナルから……玉裏……玉をかきわけて……

そうして裏スジをつつーと舐って……亀頭まで……。

っ……お兄様……とつても息が荒いです……。いつもよりも興奮していらっやいますか……？

私もお兄様の感じてる顔を見て、興奮してきてしまいました……。もう、止められそうにありません……くすっ……。

また往復させて行きますね……。ねっとりといやらしく、電マを当てていきます……。

んっしょ……んっ……。んんっ……ふっ……んうっ……。

あら……お兄様……。おチンポの先から、涎が出てしまっています……。こんな感覚は初めて、ですか……？

男の人も電マでおチンポ、気持ちよくなれちゃうんですよ……？ ふふっ……。

イキそうなのにイケない感じ……たまらないでしょう……。

イカせてほしいですか……？ お兄様……。

んふっ……かわいい……。おちんちん苦しいですねえ……もつとも一つと強い刺激が欲しいでしょう……？

それなら、もっとこのピンツッて勃起したおちんちんをふるふる揺らしておねだりしてください……。

動物の尻尾みたいに揺らして、かわいくおねだりできたら、イカせてあげますよ？ くすくすっ……。

そんなにプルプルおちんちん震わせちゃって……。

くすっ……まあ、おねだりとしては及第点ですね……。今日はこれくらいで許してあげましょう。

それではここ……アナルと玉裏の間、ここが一番お兄様は気持ちよさそうだったので、

カウントしてあげますから、ゼロになったら思いのままにビュービュー射精してもいいですよ。

もちろん、ゼロになった瞬間に電マの強さを強にして一気に押し付けてあげますから、

嫌でもイッてしまうと思いますが……くすくすっ……。

ほら、股を開いて射精の準備をしてください……。

行きますよ……。

ごーお……、よん……、さん……、にーい……、いーち……、ゼロ！

ひゃんっ……！ っわわ、すごいすごいっ……！ 噴水みたいにたくさん精液が出ちゃってますっ……！

いつもよりいっぱい出てるっ……はあっ……まだ出てますっ……すっごく気持ちよさそー……。

ドクドク射精してるお兄様のお顔、もっとよーく見せてください……。

ほら、見られてますよ……お兄様……。

お兄様よりもずっと年下の女の子に射精してる瞬間の顔、覚えられちゃってますよ……くすくすっ……。

全く射精が収まりませんね……もっと見てほしいのでしょうか……？ ふふっ……。

あ、やっと収まってきました……。

ふうっ……たくさん出しましたね、お兄様。いつもより気持ちよかったですか？

ふふっ、それは少し趣向を変えた甲斐があったというものですな。

え？ 約束は守ったから、セックスさせてくれるんじゃ……って？

ま、まあそれは次の指名のときのお楽しみってことで……。

まだちょっと心の準備が……。ご、ごめんなさい。急に恥ずかしくなってきました……。

次は、お兄様とその……本番するための準備をしておきますから……。

次回も、必ず私を指名してくださいね……？

☆Chapter5 愛し姫トウコ編

あら、いらっしやいませ。今宵も娼館、織姫屋へお越しいただきましてありがとうございます。
本日もトウコをご指名いたしますか？

えっ、今日は別の子を指名してみたい……？

そ、そうでしたか……わかりました。

お部屋をご用意いたしますので、少々お待ち下さい……。

ふふふふふっ……んー？

どうして私が入ってきたのか、気になりますか？

さっきのイロハさんとの会話、聞こえてしまったんですけど……。

お兄様……今日は、他の子を指名しようとしていましたね？ まさか、私に飽きてしまったのですか？

ねえ……、なんとか言ってください……。ねえっ！！！！

ほら、なにずっと黙っているのですか？

早くなにか言いなさいよ……私はあれだけお兄様に尽くしていたのに……何が不満だったんですか……？！

不満なんて何も無い……？ ふふっ……そう。それではやはり飽きてしまわれたのですな。

私がいつも優しくしてしまったから、お兄様が冷めてしまった……。そういうことですか……。

ふうん……けれど、他の子はきませんよ？ くすっ……私がきちんと言いつけておきましたから……。

今日も私と……してもらいますよ？

別の子にうつつを抜かそうとしていたお兄様に、私の愛情をたっぷり込めた、お仕置きが必要ですからねえ。

まずは……私のオマンコを舐めてください。んっ……ふふっ……そんなにがっついちゃって……。

全く……舐めたくてしょうがなかったようですね？ 今までこういうことはさせてなかったですものね……。

他の子にもこういうこと、したかったんですか？ それとも……こういうふうに命令されたかったのかな？

んふっ……あんっ……お兄様っ……とってもお上手ですよっ……もっと奥までっ……綺麗にご奉仕しなさいっ……。

まるで犬みたいでっ……とっても健気ですっ……。くすくす……。

お兄様ったら、やっぱり相当なドMだったのですか……？

くすっ……ほらあっ……、わんちゃんっ！ もっとお尻をフリフリしながら綺麗に舐めなさいっ……！

っあんっ……！ イイですよっ……はあっ……お兄様はっ……ペロペロする才能がお有りのようですな……。

そうっ……もっと舌の動きを早くしてっ……。

あっ……！ そこはっ……！ クリちゃんペロペロするのはダメっ……！

こおらっ……！ い、言うことを聞きなさいっ……やんっ！

イツ……！ ああっ！ そこ、そんなに激しくしたらっ……あっ、イツちゃうっ……このままじゃっ……お兄様あっ……！

出ちゃう出ちゃうっ……やだあっ……ちよっとおっ……おしっこ出ちやいますからあっ……！ ダメっ！ やめてえっ！
ああっ……！ イッ……くうううううううううううん！

あ……ああっ……。い、いっちやい、ましたあ……。
ダメって言ったのになっ……それに殿方の前でこんな……は、はしたないですう……。
こんなんじゃもうお嫁に行けませんよお……。ぐすっ……ううっ……ぐすっ……。

……ねえ、この責任、取っていただけますよねえ……お兄様？ くすくすっ……。
勿論、ここで言う責任は、毎日私のところに足繁く通っていただくことです……。
一晩でも私のことを寂くさせたら、本当におこってしまうんですから……。
もし、ずっと私を指名していただけるなら、今日は他の子がしてくれないコトを、してあげましょうか……。？
お兄様は……ココに、入れたいんでしょう？ 約束、していましたものね……。
先程沢山ペロペロしてもらったので、私の準備はもうできています……。

ふふっ……それではコンドーム、つけて差しあげますね。
……えっ、生でされたいんですか？
でも……お仕事上、これはしていただかないと……イロハさんがうるさいので、仕方が無いんです。
私としては、ゴムなんて要らないんですけれど。
お兄様が毎日、私のところへ通ってくれると誓っていただけるのでしたら……。くすくす……。

……はい、ゴムつけましたよ。とてもピンピンにおちんちんが勃起してますから、ゴムさんがキツキツですねえ……。
ふふふっ……早く入れたくて仕方がないみたいですけれど……。
んー……残念ですが、私が上になりますので……私のペースでやらせてもらいますねっ……。

んしょ……、ほーらっ……見て……入っちゃいますよ……おちんちんの先、見えますか……。？
ふあんっ……！ お兄様のカリがにゆるんって入っちゃったっ……。
ああんもう……お兄様のその、いち早く入れたいって顔……興奮してしまいますっ……。くすくす……。
ほらっ……ちゃんと見ててくださいっ。入っちゃいますよ……。？
ほらほら……私のオマンコがっ……お兄様のおちんちん食べちゃうのっ……んっ……はあっ……はあっ……！

ああっ……！ ひうんっ……はあっ……！
遂に全部入っちゃいましたねっ……。これでお兄様は……私のモノですっ……。ふふっ……。

ん？ ……お兄様、何を言っているんですか？ 全く……私は娼婦ですよ？
経験が無いわけないでしょう？ くすくすっ……。何を期待していらっしやったのでしょうか……。
んっ……私はお兄様のものでは無いんですけれど、お兄様は私のモノですよっ……。
だから、お兄様はこのまま、大人しく私に搾り取られちゃってくださいね……。くすっ……。

ほら……お兄様っ、うごきますよっ……あっ！ んああっ……！
あうっ……！ どうっ……ですか？ 今、お兄様と交尾してますっ……ああんっ！ うれしいっ！
はあっはあっはあっ……！ 見てっ！ パンパンって、とお一つも激しいセックスしていますよっ！ あははははっ！
ね、ねえっ……もう絶対に私から離れちゃダメですからねっ……。？
私はねえっ……、自分の所有物が他人に取られてしまうのが、一番イヤなんですっ……。
もし私以外の娘とこんなことしたら、私狂っちゃって……お、お兄様のことっ……殺してしまうかも……くふふっ……。

こーんな風に……あんっ……、お兄様の首に私の髪の毛が巻きついてしまっ……え……。
んっ……このままギューって首を締めるとお……。くすくす……。
怖い？ もうっ……そんなに怯えないでくださいっ……。
あっ……お兄様が毎日私のところに通ってくれるのならっ……。優しくしてあげますからあっ。
はあっ……！ ふうっ……。

気持ちっ……いいですか？ 私もとつてもっ……気持ちいいですうっ……。

はあっ……はあっ……えっちな音響かせながらっ、お兄様のおちんちん離したくないからっ……
私のオマンコ肉でぎゅうぎゅう締め付けちゃうんですっ。
絶対に絶対につ、誰にも渡しませんからねっ……！
これからは、わ、私の膣でしか、出しちゃダメですよっ……？ ぜ、絶対に逃がさないんだからっ……！
はあっ……もうっ……イキたいですかっ……？ それならほらっ、中を出してくださいっ！

ふふっ……大丈夫ですよ……。どうせゴムしてるんですからっ……。
あんっ……だからあ……思いっきりおチンポ奥まで突っ込んで、中出し気分を存分に味わっちゃってください……。

ふふっ……今、興奮しましたね？
すぐにわかってしまいますよっ……ビクビクってお兄様のオチンポが反応しましたからっ……
そのおチンポからたくさあん、精液出して、私のコト孕ませることを想像しましたかっ……？ くすくすっ……。

んっ……ほら出してっ……。いやらしく腰振ってる私の中に精液出してっ、お兄様あっ……！
中出ししてもいいですからっ……私の事孕ませていいからあっ！ お願いっ！ 奥までおチンポ突っ込んでっ！
種付けしてっ！ 生涯のお嫁さんにしてえっ……！
あぁっ！ イイツ……！ イクイクイクイクっ……！ 私もイツちゃううっ！ イックくううううううううんっ！

はあーっ……！ すごおいつ……はあっ……。あんっ……！
あうっ……私のオマンコが……おちんちんから精液っ、きゅきゅ一つて絞り取ってますよっ……？
はうっ……ゴムが精液で膨れてっ……私の中で暴れちゃってますうう……。
妊娠させたいよーって精液が頑張ってる子宮ノックしてるのおっ……。

はあーっ……はあーっ……んふふっ……でもお、ダメですよ……。
んっ……この通り、お兄様のこってりプルプルの濃厚精液は、ゼーンぶこのコンドームの中に収まっちゃてまーすっ。
……どれだけ溜まっていたんですか？ よく見るとすごい量ですよえ……。
そんなに私のコト、孕ませたかったですか？ くすっ……。

お嫁さん……？ な、そ、そんなことは言っていません！
い、言ったとしても……勿論、全部演技に決まってるじゃないですか。もう……。

けれど、これからは……私がお兄様の肉欲の全てを叶えて差し上げますから、他の娘は必要ありませんよね……。
私にこうしてまた、精液搾り取られたかったら、私を指名して素直におっしゃってください。
いつでもお兄様と、激しいセックス……してあげますからっ……。くすくすっ……。